

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター英智保

作成者: 畑中 勉

作成日: 2024年 3月 31日

運営推進会議における評価実施日: 2024年 3月25日



(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進 会議 評価 結果	外部 評価
I 理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B	「家庭的な雰囲気の中でその人らしく生活していただける施設、ご家族様や地域の絆、地域のふれあいをたいせつにし、安心して暮らしていただける」を理念に置き取り組んでいます。		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	A	今年度から地域行事に参加できるようになり地域の一人として交流ができている。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	B	運営推進会議は3月25日に実施最終的に1年の報告を実施した。報告書は参加メンバーの意見を伺いながら今後の取り組みについても話し合った		
4	市町村との連携	市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	B	今年度は管理者が2回実地連携等が不十分であったが、実地指導があり協力関係は築くことができた。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A	身体拘束廃止委員会の実施を月に1回行い、身体拘束になりうる事業の検討をおこなっている。また委員会での話し合いは職員ミーティングにて職員も考える場を作り対策を検討している。	A	毎月の身体拘束廃止委員会を行っており、職員間で共有できていることが評価できる。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	A	定期的な研修を実施し、虐待に関して話す機会を設け職員の意識を高めている。また、職員自身のストレスが溜まっていないかお客様へのケアと同様スタッフの心のケアに努めている。	A	定期的に研修を実施して職員の意識を高め、業務に実践されている。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	現実成年後見人が必要な方がおられないが、必要性や関係者を紹介できる様に人とのつながりを持ていく		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	B	契約は十分な時間を持ち、質問等にも答えながら行っている。納得していただいている。介護報酬改定時も運営推進会議での情報提供をする。契約時に重複化について話し対応を考えていただいている。		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B	お客様には、常にお話を聞かせて頂き、家族様には来所時にお話を伺ったり、お電話があった時に意見を伺っている。年に一回のニデイからのアンケートをお送りしての顧客満足度調査を実施して要望伺っている。	A	入居者家族へ来所時に聞き取りや会社独自の顧客満足度アンケートを通して要望を聞いて施設運営に反映している事が評価できる。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A	月に1回の業務ミーティングや随時職員の意見を聞いて仕事に打ち込みやすい職場になるように意見を交換している		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A	業務ミーティングを開催し意見をみなで共有しお客様の問題など話をしている。また、日常の中でも疑問や、問題点があった時はその都度話を出来る環境を作っている。経費のお客様が増えたことで職員の対応も変化が必要になっている。言葉や態度はその都度気づけば管理者が個人的に声をかけて注意している。	A	職員の労働状態が把握しており、やりがい見出させていることは評価できる。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A	社内でのスキルアップ制度等個々のスキルアップ・意識向上につなげるように努力している。職員の希望外にも出来る限り返えるようお互いの精神で協力している。	A	社内のスキルアップ制度を用いてやりがいを与え、職員育成している事は評価できる。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	C	なかなか外部の方とのコミュニケーションはとりにくい状態だったが、姫路市のグループホーム連絡会や会社の研修を利用してサービスの質の向上を目指している		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B	お客様のご希望の入住は、時間等と職員の見守り・入浴介助の配置が必ずしも入居に阻むことは、同じ関係になるよう対応している。時間等は各自の自によって対応した。また、外出等の時はその都合にあわせて対応している。失業などで離れたら入居とは別にお風呂にて清潔にしている		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A	家族様・知人の訪問がある方とそうでない方に分れますが、ご家族様の協力があればこそ継続しての訪問をしていただけるように私たちは環境を整えるように心がけている。コロナ制限緩和後は、面会は1日2家族様、2週間の検診、玄関での面会の対応にしています。		

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター英賀保

作成者: 畑中 勉

作成日: 2024年 3月 31日

運営推進会議における評価実施日: 2024年 3月25日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進 会議 評価 結果	注
II その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	B	ご本人様の思い・希望をしっかり聞き取り、ケアに当たる。日々の行動・意欲を把握することで、その方の新たな思いを感じ取れるように職員は常に意識をして困難なときでも家族様と共に検討し対応している。情報は職員に伝え理解した支援を皆で考えるようにしている。		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	B	モニタリングは職員に記入を依頼し計画書に反映している。ご家族が来られた際は、状況をお伝えしている。何か課題・問題点があればその都度職員・家族様に相談しながら対応している。	B	モニタリングを行うに当たって職員の意見を聞き取り、家族様に現在の状況をお伝えし、都度相談しながら対応している事は評価できる。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	B	日々の状況は介護記録に記入しているが、変化があれば日誌に記入し職員間で共有している。全てのことが管理者に報告できる様に仕事の終了時には声をかけるようにしている。管理者は支援経過を記録している。	A	日々の介護記録や申し送りを通して共有でき、支援経過や介護計画の見直しに反映できていることは評価できる。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	A	ADLの維持向上が必要な方は訪問リハビリを利用いただいたり家族様と相談しながら支援を続けている。現状インフォーマルなサービスに繋げることは出来ていない。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	C	往診医・訪問看護・自治会長・民生委員・ボランティアさんを支えられている。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	B	従来からのかかりつけ医が協力医の定期訪問診療(月2回)を希望されるか家族様に説明し、選択していただいています。どちらを選ばれても適切な医療を受けていただけるようにはしている。病院が処方の方の対応もある為難やかな状態を報告して家族様から伝えて頂く様になっている。		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	B	入院時は日常生活や必要な情報を提供している。ご家族の希望等を日頃より伺い病院にもお話し出来る様にしている。退院時には退院時カンファレンスに参加させて頂いている。サマリーなど必要な記録は病院担当者から提供していただいている。	A	入退院時の対応はもちろんだが、病院と協力医療機関とご家族様への連携によってご本人様の状況把握に努めていることが評価できる。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	B	契約していただくときには、説明をしている。可能な限り生活を継続していただけるように家族様・医療関係者には相談している。居場所が必要な状態は、当施設での生活を継続できないので、ケアマネも必要の希望を把握して相談している。ケアは難しい状態になってきたら家族様と相談し、ご本人にとって幸せな生活の場が何処にあるか説明して移動場所も一緒に検討している。	A	契約時に重度化した場合、可能な限り施設に生活できる様に家族様や医療機関に相談できており、グループホームでの生活が難しい場合、ご本人様にとっての生活の場を一緒に検討する事は評価できる。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	B	マニュアルを使い緊急時の対応と連携に対しては研修を行っているが、何をまず行わないといけないかは指導している。救急搬送に必要な書類や状態は連絡手帳を作り常時フロアに設置している。		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	B	年2回の避難訓練を実施し、その内の1回は消防署職員から災害時の対応を指導受けている。またBCPの策定を行い、避難についても運営推進会議にて自治会長に確認している。	B	年2回の消防訓練はもちろんだが、地域の消防訓練にも参加する必要がある。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター英賀保

作成者: 畑中 勉

作成日: 2024年 3月 31日

運営推進会議における評価実施日: 2024年 3月25日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	PM
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B	個々の人格・尊厳を尊重しお客様と顔・目を合わせて丁寧な言葉で話をするように心がけている。しかし家族のような雰囲気も大切にしている。職員の中には種別が強く言葉遣いが悪い為その都度注意して改善できる様に指導を続けている。	A	接遇マナーがしっかりとできおり、時と場合によってお客様が穏やかに生活できるようフレンドリーに接している事は評価できる。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に。その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	C	人員が不足し、介護度も高いためどうしても介護度の高い方の介助が先になるが、平均介護度が2.67と昨年と変わりないがご本人の出来る事を継続していく支援が少しづつできている		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	B	季節を感じ取れるように食材で提供している。見た目も大事なので色合いも気にしての食事提供を心がけている。お客様には、調理・食材洗い・食器洗い・食器拭き等できることを見極め依頼している。	B	季節の食材の提供や色合いのある盛り付けの食事提供ができているが、マンパワーの兼ね合いでお客様への食事の支援が難しいことについて課題がある。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A	体重管理も必要に応じ行い、食事量・水分量もしっかり一貫してわかるように管理している。喉下機能に応じてロコモ、キズミお客様に応じて対応している。医師との連携をはかりアルブミン値や栄養状態の指導も得ている		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A	毎食後の口腔ケアの実施と半年に一度のLIFEによるチェック。お客様により歯科医の往診によりケアを行う事で感染性肺炎のリスクが低下している。家族様のご協力もあり一人一人の状態にあった方法を実施できている	A	訪問歯科の往診で口腔状態の保持に努めており、また家族様の協力も含めて個人の状況に応じて支援できていることが評価できる。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A	自力でのトイレを利用されている方でもパッドが濡れる前には声掛けをしています。自力が難しい方は、排泄リズムを把握し定期的なトイレ誘導を行う。体調に合わせたオムツや紙パンツの利用で失敗が無い様に清潔に配慮しながら支援をしている	A	トイレの声掛けや誘導ができ、体調によっておむつや紙パンツへの対応ができ評価できる。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A	お客様のご希望の入浴は、時間帯と職員の見守り・入浴介助の配置が合わず行えないことがある入浴日に限っては、同じ間隔のなるよう対応している。時間帯はその日によって対応している。また、外出等の時はその都合にあわせて対応している。		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A	夜間の就寝はお客様に応じて誘導対応している。室間の静養に関しては、長くないように適宜声掛けをしている。		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	B	服薬の変更等があったときはお客様の状況変化の様子観察を行い状態が変わればすぐに往診または家族様に連絡し相談指示を仰ぐようにして居る。副作用については職員にも申し送りしている。処方箋のコピーをフロアに配置して職員も確認しやすくしている	A	薬情報は各フロアに置き職員間で共有できている。また家族様の協力も含めて個人の状況に応じて支援できていることが評価できる。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	C	ご本人様の今までの生活歴や好きなことをお聞きして、歌や買い物・食べ物等対応できることは行っている。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるように支援している	C	新型コロナウイルスが少しづつ落ち着いたので職員とお散歩に行ったり・ご家族様と外出・外食に行かれたりされる。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	D	お客様でのお金の管理は難しいのでお小遣い金として上限1万円まで預かり、希望に沿ったものを購入させて頂いたり管理させていただいている。		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B	事務所でお客の要望があればご家族様に連絡をしている。年賀状には一言書いて頂ける様になっている。年に2回写真つきのご挨拶を送りご本人の文字の練習にお友達や家族様にお手紙を書いていただく		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B	リビング等に季節に合った壁面・写真等を飾っている。室内温度は季節に合った温度に調整している。明るさは目に優しい照明を付けている。冬は、床暖を点けることで足元の冷えを予防し、健康に配慮している。	A	リビング内に貼り紙や写真・作品を掲示しており、お客様が楽しく見られていることが評価できる。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター英賀保

作成者: 畑中 勉

作成日: 2024年 3月 31日

運営推進会議における評価実施日: 2024年 3月25日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	事業所 外部評価 (記入する 外部評価)	記述
IV 本人の暮らしの状況把握・確認項目・利用者一人ひとりの確認項目						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	B	何を望まれているかご本人の希望を汲み取る事ができる様に介護職員が気づきをして対応している		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができる	B	職員の指導の中にアセスメントの活用ができる様に計画作成者が話していく		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができる	A	体調をみながら必要な援助を行っている	A	日頃の様子を職員間で共有し援助できていることは評価できる。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	B	今までできていたことへの継続をしながらご本人のペースに合わせていける様にしている		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	A	自室にはご本人のなじみのものを置くように心がけている	A	お客様が不安なく安心して生活できるよう配慮がなされていることが評価できる。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができる	C	コロナ禍が緩和されたとはいえ家族様とのつながりは感染予防を徹底しながらあつて頂ける様にしている		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができる	B	出来る事は職員が声をかけて提供して、できることの継続を大切にしている		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができる	B	職員と笑顔で話しかけて笑いが多い職場を目指している	B	笑顔で笑いが絶えない職場づくりを目指すにはもっとお客様の様子を観察する必要がある。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができる	D	地域の祭りに参加したり、秋祭りの御神輿施設にきて頂いたり地域交流をしている。		
49	総合	本人は、このGHにすることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができる	B	少しづつ面会の機会も広げ家族様だけでなく近隣の方にあう機会も増やしていける様になっている	A	今のところ家族様の面会メインであるが、新型コロナの制限緩和後も地域との交流は必要である。

総評

お客様が不安なく安心して生活できていることに関して評価が出来ている。

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

地域との交流をもっとしていく必要がある。

参加者サイン欄

佐藤 幸 (施設長代理)

帳票D

事業所名ニチイケアセンター英賀保

作成日: 令和 6年 3月 31日

作成者: 畑中 勉

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	37	お金の所持や使う事の支援が出来ていない	トラブル無くお金を持って買物に出られる	お金はお小遣い金のみ事務所に預かったものを少しづつ持って頂き近隣に買物に介護職員一緒に行く	6ヶ月
2	45	本人の意向や希望によって戸外に出ることが難しい また近隣とのコミュニケーションを取っていくことも困難な状態である	散歩や買物、季節の行事に参加し、地域包括の実施のイベントに参加して近隣との関係を作る	近隣地域の店舗への介護職員との同行や季節の行事地域包括主催の行事に参加する	6ヶ月
3	48	本人の意思で近隣の地域の人たちとの交流ができていない。	個々の希望で近隣地域の行事に参加したり、近隣地域の行事の参加の支援をする。	運営推進会議等で地域行事の把握をした上で入居者様に行事の告知を参加の有無をお聞きし、参加できるよう支援を行う。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。